

地方開催  
企画  
第1弾

# スマート・プランニング 実践セミナー @甲府市 を開催

平成30年2月21日(水)、土木学会土木計画学研究委員会「スマート・プランニング研究小委員会」主催による地方開催企画の第1弾としてスマート・プランニング実践セミナー(@甲府市)が開催されました。

セミナーは、産・官・学の実務者を対象として、甲府市の取組みを事例に、スマート・プランニングを今後、多くの都市で導入していくためのスキルを習得することを目的として開催されました。



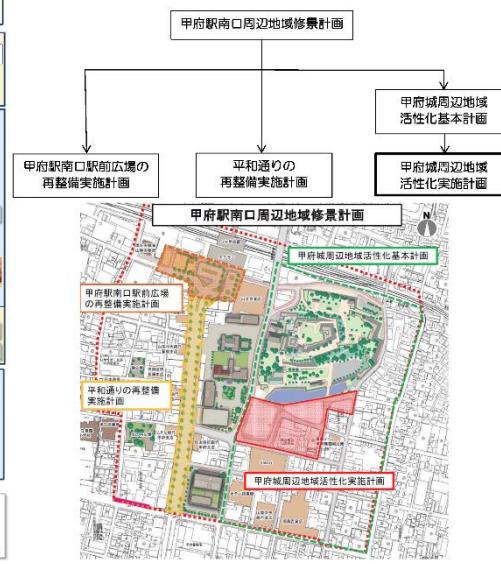
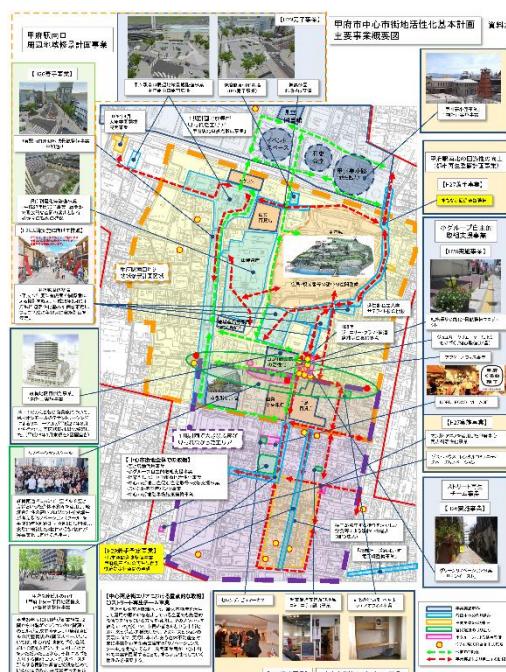
## 開会挨拶

セミナーの開催にあたり、スマート・プランニング研究小委員会の委員長である東京大学大学院工学研究科の原田昇教授より、ビッグデータにより時間的・空間的に細かい分析ができるようになっていること、自動運転やシェア、コネクテッドカーなど新たなモードの実用化が進展していることなどから、まさにスマート・プランニングを始める時代が到来していること、そして、これを地方で実践していく意義についてご挨拶いただきました。



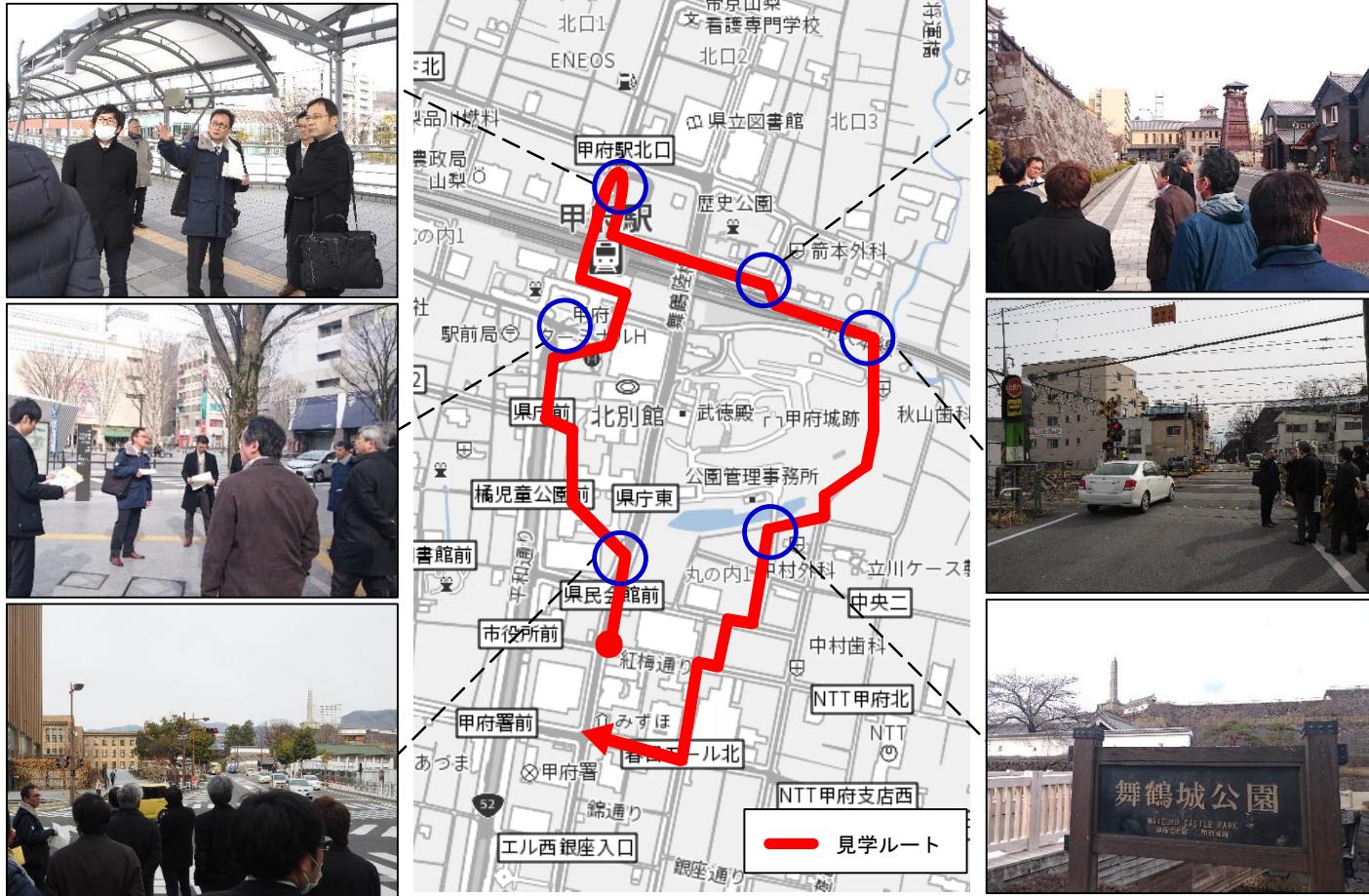
## 甲府市取組み概要説明

続いて甲府市建設部まち開発室都市計画課の芦川和也氏より甲府市における中心市街地での取組みとして、甲府市中心市街地活性化基本計画の主要事業の概要について紹介が行われました。また、中心市街地における集客の各となる可能性をもつ甲府城周辺地域における「甲府城周辺地域活性化実施計画」について説明がありました。



# まちなか見学会

続いて、甲府市職員の方々の案内により参加者一同で中心市街地の取組事例や今後事業が予定されている箇所をめぐるまちなか見学会が行われました。甲府市役所を出発し、山梨県庁耐震化等整備事業による歩行者動線の整備状況、平和通りや甲府駅南口周辺の景観整備事業、甲府駅北口のイベントスペースや歴史公園、甲州夢小路、甲府駅南北の回遊性向上に資するまちなか回遊道路整備の対象箇所、甲府城周辺整備の対象エリア、オリオンイースト等をめぐる約1時間の現地見学により、中心市街地での取組みの状況やまちなかの賑わい、交通実態に関する参加者の理解が深められました。



基調講演

休憩をはさみ基調講演が行われました。まず、国土交通省都市局都市計画課都市計画調査室の越智健吾室長からは、「都市交通調査の高度化について」と題し、近年重要視されるEBPM(エビデンス・ベースド・ポリシー・メイキング)の考え方でもビッグデータの活用が奨励されていること、都市交通調査の高度化に向けた様々な取組みが検討されていること、また、必ずしも交通に特化せず福祉や子育てなど幅広い施策の検討においてもスマート・プランニングが活用できることについて説明がありました。

山梨大学工学部土木環境工学科の佐々木邦明教授からは、「さあ山梨でスマプラを始めよう」と題し、過去のPT調査からの変化がビッグデータの活用で把握できるようになってきたことや、PT調査を用いた行動モデル例について紹介がありました。また、歩行者観察から分析した滞在者数、着座率の増加から甲府駅南口広場の改善による賑わい創出を把握した事例や、建物の使われ方と歩行者通行量の関係性に着目した街路整備への示唆として建物ポイントデータの活用事例について説明がありました。



# ワークショップ

「スマート・プランニングの調査計画を立案しよう(甲府市を事例に)」と題して、参加者が3つのグループに分かれワークショップを行いました。

## グループワーク

甲府市中心部におけるまちづくりの課題や対策案、スマート・プランニングの視点から把握すべき情報や活用可能なデータについて意見交換を行い、班ごとに課題マップを作成しました。



## 発表・講評

施設配置や道路の整備状況などの課題から、新たな施策案の提案に至るまで、中心市街地の回遊性向上のための様々なアイデアが報告され、山梨大学の武藤准教授より「地域の課題を再認識できた」、同大佐々木教授より「ニーズを確認しながら把握すべきデータを整理することを議論できて良かった」、東京大学の原田教授より「モデル作成までの議論は一朝一夕には難しいが、地域らしさを織り交ぜながら一層議論を深めてほしい」といった講評もいただき、今後の施策検討への活用により一層の期待が高まりました。



## 講評・閉会挨拶

会の結びに、国土交通省都市計画調査室の越智室長(小委員会副委員長)より、ワークショップの講評として、歩行者回遊や駐車場に関する施策の提案が多く挙げられていた中で、属性ごとの回遊行動の分析が施策の評価に重要であり、スマート・プランニングの手法の有用性が高いこと、属性毎の回遊行動データや施設のサービスレベルのデータ整備が必要だといったまとめが行われました。

## ワークショップでスマプラを疑似体験、理解を深める

セミナーには、甲府市役所や山梨県庁、国交省など行政関係者17名、大学関係者4名、コンサルタント会社等8名の合計約30名が参加しました。さまざまな職種のメンバーが集まり、スマート・プランニングについて、それぞれ関心事項や疑問点を話し合い、調査計画を立案することで、スマート・プランニングに対する理解を深めていく様子がうかがえました。

本セミナーで用いました資料につきましては、スマート・プランニング研究小委員会ホームページにおいて後日掲載予定です